

東京農業大学稲花小学校

学校だより【2022年9月26日】第137号



安全な通学のために

9月20日(火)は、台風14号の影響が心配された朝でした。しかし、午前6時前後に世田谷区(23区西部)に気象庁より各種の警報などが発令されていなかったことから、本校の「学校生活のしおり」に記載されている原則に従い、平常授業となりました。

しかし、このことは、無理な登校を求めるものではありません。「学校生活のしおり」にも、「居住地の気象情報や交通情報、児童の理解力・体力等を十分に考慮し、「安全な通学」が可能な保護者が判断してください。登校だけでなく下校をも含めて慎重な判断をし、必要であれば欠席としたり、学校あるいは最寄り駅までの送迎を行ったりしてください。」と記載されています。本校では、通学の経路や、児童の発達の様子も様々であることから、安全な通学のためには保護者の判断が大切であると考えています。20日(火)も、居住地の風雨の様子から、あるいは、交通機関の様子などを理由に欠席した児童も複数おり、保護者の皆様が慎重な判断をされたことがわかります。

ご家庭でお話はずみますように

昨年度の3年生は稲花タイムにおいて、ゴージョージャパン株式会社のご支援により東京農業大学の卒業生(校友)からコロナ禍における手洗いについての授業を受けました。そのご縁もあり、9月12日(月)に手指消毒剤と感染対策と手指衛生についての教育用冊子を頂き、1年生から4年生までの全校児童に配布しました。石鹸や流水によるしっかりした手洗いや、手指消毒剤の利用について子どもたちにお話しいただくよう、保護者にも改めてお願いしました。

ゴージョージャパン株式会社：<https://www.gojo.com/ja-JP/home>

また、連休を前に、3年生の子どもたちは、カリフラワー、ブロッコリー、キャベツ、芽キャベツ、紫キャベツのいずれかの苗を持ち帰りました。これは、東京農業大学グリーンアカデミーで園芸などを学ぶ社会人の生徒さんからのプレゼントです。プラグ苗という小さい苗ですが、ご家庭で定植して、楽しみに成長を見守ってください。本校のテラスでも栽培を開始しました。



さらに、9月22日(木)には、日本食糧新聞「学校法人東京農業大学理事長特別座談会」掲載号を、全校児童に配布いたしました。これは、4月に設立された学校法人東京農業大学食品安全研究センターを紹介するものです。このセンターのオープニングでは、教育評論家尾木直樹氏も講演され、尾木氏は講演後に農大稲花小を見学されました。掲載誌は児童には難しいものですが、保護者の方々には、東京農業大学へのご理解を深める一助となることと思います。

学校法人東京農業大学食品安全研究センター：<https://www.nodai.ac.jp/fsrc/>

農大稲花小の子どもたちは、東京農業大学をはじめとする様々な方々の応援をいただいています。配布物などを介してご家庭で話題にさせていただくことで、子どもたちには広い社会とのつながりの中で育ってほしいと願っています。

秋の行事の準備も

9月27日(火)からは学年ごとの授業参観(オンライン)が始まります。また、10月に入ると、1年生は厚木キャンパスへ、2年生は伊勢原農場へ出かけます。10月5日(水)には、来年春に予定しているオーストラリア短期留学(現4年生対象)の第二回説明会も開催されます。教育後援会主催の芋ほり・落花生ほり、さらに11月には全校あげてのスポーツデーと、様々な行事が予定されています。子どもたちも楽しみにしているようです。ご準備やご参加については、保護者の皆様にもご協力よろしくお願いたします。

東京農業大学稲花小学校
校長 夏秋 啓子